

最優秀賞

高校生部門〈いじめの克服〉

岩手県立大船渡高等学校2年

藤田 葵子

自分改革

私はポジティブでいつも楽しそうだとよく言われる。その通りで私の毎日の生活は多少トラブルもあるが、楽しくて明るく過ごせていると思う。私が毎日を楽しんでいると感じられて生活しているのは母から言われた言葉にある。

小学三年生から四年生まで私はイジメを経験した。それまで私の学年でのイジメはなく私がイジメ経験者第一号だった。初めて経験した時はひどく傷ついた。隠されたうわばきは結果的に掃除用具入れのバケツの中から見つかった。登校してすぐに、下駄箱にうわばきが無いのに気づき焦って友達に助けを求めたが、分かってもらえず探すのを手伝ってもらえなかった。一人で下駄箱で泣いている所を先生に見つかり一緒に探してもらったのだった。その後も何度も同じ行為が続けられた。外にあるゴミ捨て場や草むらの中、ごみ箱の中からうわばきや名札が見つかり机の中からはイタズラ書きが、時には工作が壊されるなど、イジメは続いた。その度に傷ついたが、学級で問題になるのも恥ずかしくて嫌だったし、毎回先生から親に電話連絡がいくのも嫌だった。

そんな中、私が母に、今日もうわばきを隠されたから先生が電話をかけるそうだと伝えた。母は、

「何度も何度も懲りずにやるねえ。先生からかかってくる電話ももう飽きたよね」

と言った。この言葉を聞いて私の中の何かが変わった。悲しみが怒りに変わり、そして呆れに変わった。その次の日、私は皆の前で先生に言った。

「もう慣れたし、飽きたので、電話はいりません」

それからイジメは無くなった。また私自身も明るくなり自分らしく生活できるようになった。考え方を変えるだけで心が軽くなり、少しの勇気を持つだけで自分の人生を変えられたのだ。それが今でも私の自信となり、今の自分の土台となっている。